

学校等におけるこどもの 事故の現状と課題

常葉大学教育学部教授
木宮敬信

災害の現状（小学校）

	加入者数 (加入率)	災害発生件数	災害発生率	主な場面
令和4年度	6,182,954人 (99.8%)	281,768件	4.56%	各教科等32.8%、休憩時間46.7% 特別活動8.5%、通学中8.6%
平成30年度	6,417,329人 (99.9%)	344,087件	5.36%	各教科等29.1%、休憩時間47.9% 特別活動8.8%、通学中8.0%
平成27年度	6,492,495人 (99.9%)	372,108件	5.73%	各教科等28.5%、休憩時間47.6% 特別活動9.4%、通学中7.8%

災害件数、発生率は減少傾向にある。
全体が減少していく中で、教科指導中、通学中の災害の割合が増加している。（この傾向は中学、高校でも同様）

出典：日本スポーツ振興センター「学校の管理下の災害」

災害の現状（幼稚園等）

	加入者数（加入率）	災害発生件数	災害発生率
令和4年度	合計：3,139,605人 幼稚園732,936人（79.3%） こども園694,115人（84.5%） 保育所等1,712,554（80.2%）	合計：71,927件 幼稚園：14,136件 こども園：17,173件 保育所等：40,618件	合計：2.29% 幼稚園：1.93% こども園：2.47% 保育所等：2.37%
平成30年度	合計：3,274,556人 幼稚園966,359人（79.9%） こども園511,034人（84.6%） 保育所等1,797,163（82.8%）	合計：70,314件 幼稚園：17,323件 こども園：11,714件 保育所等：41,277件	合計：2.15% 幼稚園：1.79% こども園：2.29% 保育所等：2.30%
平成27年度	合計：3,251,153人 幼稚園1,123,617人（80.0%） こども園247,250人（87.9%） 保育所等1,856,641（83.2%）	合計：64,704件 幼稚園：19,272件 こども園：5,313件 保育所等：40,119件	合計：1.99% 幼稚園：1.72% こども園：2.15% 保育所等：2.16%

災害件数、発生率は増加傾向にある。
加入率は、年々減少している。

出典：日本スポーツ振興センター「学校の管理下の災害」

小学校での事故を防止するために

- 多くの事故は休憩中、教科指導中に発生している

【休憩時間中】

- 休憩時間中の教職員の巡視体制の構築
- 学年が混在して遊ぶリスクの理解
- 休憩時間中に行われる運動（スポーツ）のリスク
 - 用具の使用、ウォーミングアップ、スペースの確保など

【教科指導 ＊主に体育】

- 個々の発達や技量等を踏まえた教師の適切な指導
- 老朽化に加え、設備の固定やスペースの確保といった施設設備の安全点検
- 児童の運動能力（体力、筋力など）の向上

小学校の 体育授業中の骨折事故

体育授業中

発生件数

23,967件

発生割合



体育活動中の災害における骨折事故の占める割合

他の学校種に比べて骨折事故の占める割合が高い

【体育活動中】

中学校 → 36.3%

高等学校 → 32.3%

【運動部活動中】

中学校 → 63.6%

高等学校 → 64.0%

出典：JSC骨折事故防止パンフレット
「なくそう！骨折事故」

なくそう！ 骨折事故

- 体育・保健体育授業担当者、運動部活動指導者のために -



JAPAN SPORT
COUNCIL

種目別に見る骨折予防のポイント

小学校

跳箱運動

主なけがの原因

- 跳箱の上で手が滑る
- 跳箱から落下し、手指部、前腕部等を床に強打する
- 跳箱から落下し、自分の手の上に乗る
- 跳箱の上に着手した際に手首の上にお尻が乗る



正しく手をつく動作の習得

跳箱の奥側に手をつく練習、手をついたときに手で身体を支えて上体を起こす練習をする。跳箱を使った練習以外に、両方の手足を使って前に進むカメさん歩き、トカゲ歩き、手押し車等両方の手のひらでしっかりと手をつく動作を身に付けさせる。



個々の能力に合わせた個別的、段階的な指導

高い段数や難しい跳び方ができることではなく、跳箱の一番の動作が適切にできることを目標に、個々の動作の習熟度を確認しながら、段階的に指導する。また、段数選択にあたっては身長を考慮し、跳箱の両サイドにはマットを敷く等活動場所の工夫も行う。

バスケットボール

主なけがの原因

- 他の児童に接触・転倒する
- ボールを遠いにかけて壁等に衝突、転倒して床に強打する
- ボールを受け損ねる



危険予測・回避と危険なプレーの抑制

密集地帯での過度な振り回し、他の児童の着地点への侵入、空中にある他の児童への過度な接触がどのような結果を招くのか具体的な場面を提示し、危険を予測させ、危険行為を抑制する。



活動環境の安全確保と密集の回避

施設・設備への接触・衝突を避けるため、競技スペースと施設・設備との間に十分なスペースがない場合は、カバの設置や活動人数の調整、プレー内容の制限等で事故予防を図る。

ドッジボール

主なけがの原因

- ボールが手に当たる、受け損ねる
- ボールを避け、バランスを崩す、つまづいて転倒する
- ボールを避け、他の児童にぶつかる



捕球時の安全な動作の習得

ボールを受ける際に手を突き出さないよう、準備運動等で、緩いボールから始め、徐々に速いスピードにして、両手でボールを受け戻す練習を繰り返し、習得させる。



転倒時に手をつく動作等の習得

ボールを避けようとして、バランスを崩し、転倒した時に、とっさに手のひらをついたり、転がったりする動作を繰り返し準備運動等で、習得させる。

幼稚園での事故を防止するために

【発生率の増加の背景】

- 慢性的な人材不足
- 幼稚園からこども園への移行に伴う問題
 - 施設や設備が不十分
 - 非正規職員の増加

【災害共済給付制度への加入率の向上】

⇒ 事前配布資料（災害共済給付制度概略）参照

- 民間保険と災害共済給付制度の目的が理解されていない
 - 被害者の救済だけではない
- 掛金や事務作業等を園が負担することの意味
 - 責任と役割分担

幼稚園・保育所等の事故防止パンフレット

なくそう！ 保育中の事故



JAPAN SPORT
COUNCIL

乳幼児（0～6歳）の事故の傾向と事故防止対策を掲載し、成長途上の乳幼児に起こる様々な事故について、未然に防ぐための情報をまとめている。

出典：JSC幼稚園・保育所等の事故防止パンフレット
「なくそう！保育中の事故」

事故防止の視点（ヒヤリハット）



「ハインリッヒの法則」 = 「1 : 29 : 300」

死亡を含む重大災害が1件発生する場合、29件の軽傷の災害が起きており、さらに300件のヒヤリ・ハット（ニアミス）事故が発生している。

ヒヤリハットの時点で問題を把握し、次のヒヤリハットを防ぐ取り組みを実施する。

ヒヤリハットは既に事故と認識すべき！

☆他の幼稚園や小学校で起こった事故から学ぶ

- ・他校で起こったことは自校でも起こる可能性
- ・ハインリッヒの法則に照らしてみれば…

